

10501

36

編 號	760	保 期	3	20	水 水
關 係		機 期	(發付迄)	( )	
		機 種			

水  
水

横鎮第九八號

昭和四年六月十九日

横須賀鎮守府 參謀



海軍省 副官



第一課  
第二課

築磯試験ノ爲嚴艦艇無償交付ノ件照會

本年一月十日横鎮第九八號ヲ以テ首題ノ件上申ニ對シ三月二十六日官房第九三號ノ二回答ノ次第モ有之候處別紙寫ノ通千葉縣内務部長ヨリ依頼有之候ニ付可然仰取旨相成度

別紙三葉添



管庫  
六月十九日  
七子

海

軍

(終)

4.6.21

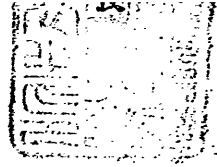
本件右  
貴局

昭  
和  
四

昭  
和  
四

留房受

六月廿一日



一月二十六日官

内務部長ヨリ

(終)

軍

4.6.21

昭和4年6月21日

経理局 御中

海軍省軍務局



本件有償交付スルコストは、187日(187)ノコストニ  
貴局ニテ管理セラル

1051

商第一五八三號

横鎮第九八號ノ七

昭和四年六月十四日

千葉縣 内務部長

横須賀鎮守府參謀長殿

樂磯試験ノ爲廢艦艇無償下附申請ニ關スル件

一ニ本縣ヨリ申請致置候標記ノ件ニ關シ三月廿九日附横鎮第九八號ノ  
 二ヲ以テ御意見御回示相成候處別記ノ通其ノ沈置位置及要領ヲ記載シ  
 タル書面提出致候ニ付御調査ノ上無償御下附方特ニ御詮議相成様御取  
 計相成度此段及御依頼候也

追テ大藏大臣宛本日本件ニ關スル上申書提出致候條御了知相成度申  
 添候

大藏大臣宛事務長ヨリ経理局長宛  
 上申ノ旨有償ニテ交付サレタル旨  
 照会アリ

(終)

海軍

## 記

## 一、築磯施行位置 別紙圖面ノ通

## 二、築磯施行要領

イ、本試験ハ沿岸適當ノ海區ニ人丁的築磯ヲ施設シ以テ有用魚族ノ増殖ヲ計ラムトスルニ在リ而シテ本築磯ニ對シ蝟集スル魚族ノ種類、施設前後ノ漁獲高、其ノ他築設物ノ有効期間等ヲ試験調査スルヲ以テ主目的トス

ロ、廢艦艇ハ之ヲ本縣水産試験場漁業指導船ふさ丸ヲ以テ施行豫定地ニ曳航ス

豫定地ニ於テ潮流、風向（周年ヲ通シテノ）等ヲ顧慮シ大体ニ於テ之ト平行シテ沈設セシム沈設後ハ其ノ所在位置ヲ明カナラシムル爲一ケ乃至二ケノ浮標ヲ設クルモノトス

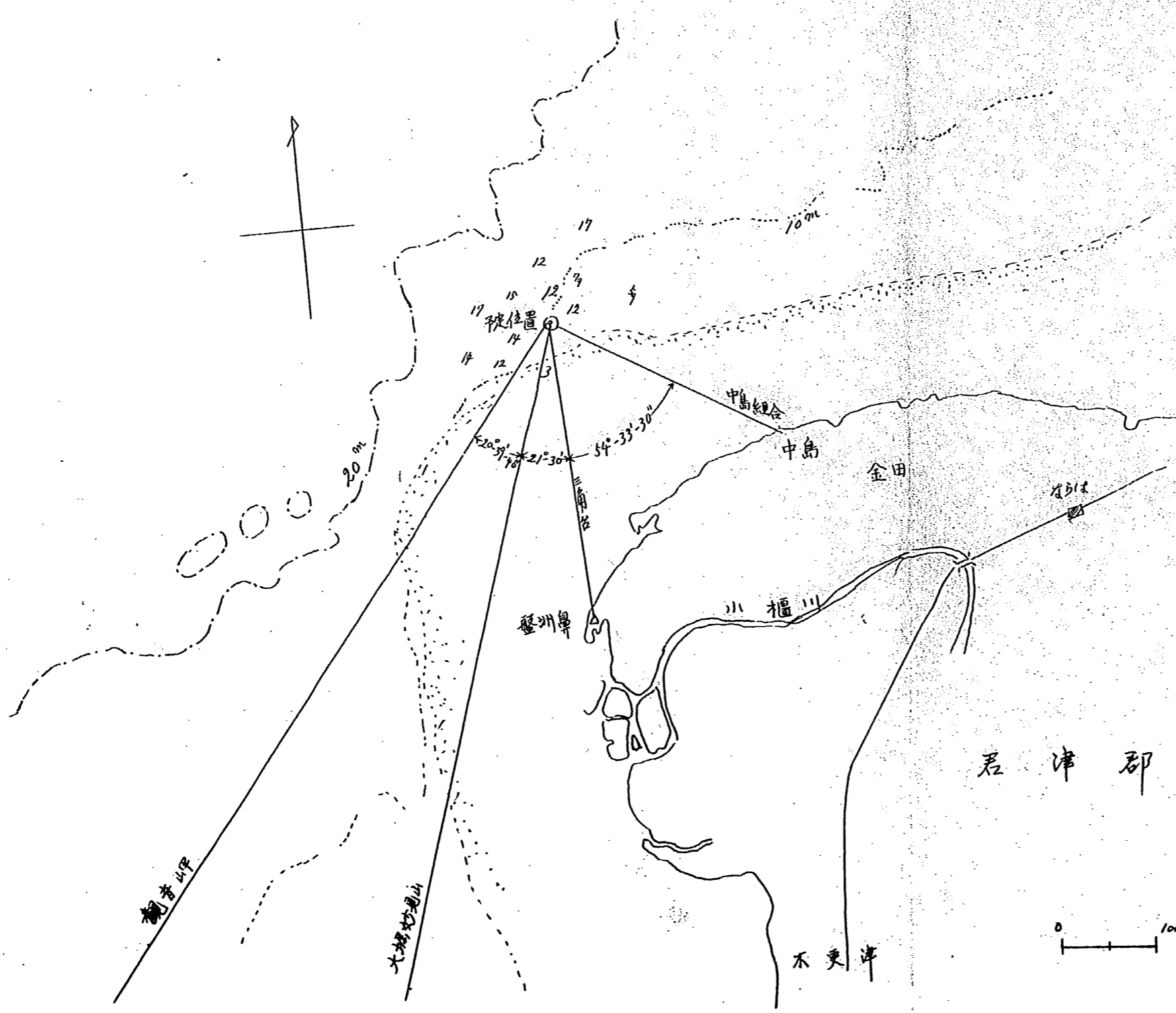
ハ、從來本縣水産試験場ニ於テ施行シタル本試験ハ古和船又ハ木枠ニ割石及土依（米糠、粕等）赤土ニ混合シ魚族ノ餌料トナシ

又ハ米糠、粕等ノ腐敗ニ伴フ微生物ノ發生ニヨリ魚族ノ蝟  
集ヲ來サシムル装置トスヲ入レテ沈設セルモ今回ハ木船  
木枠ニ代フルニ廢艦艇ニ割石及土俵ヲ積ミテ沈下セシメ以テ  
試験、調査ヲ爲サムトスルモノナリ

以  
上

海

軍



君津郡金田村中島地先  
 築城施行豫定位置直  
 北緯 一三〇度五五分  
 東經 一三〇度五五分

君津郡

一任ス

一 廠船ノ處分ハ海軍ニ一任ス

一 廠船ヲ公共團體ニ無償譲與セントスル場合

(A) 相當價格アルモ解毀其他ノ費用ト差引クトキハ知シト價格ナキ

ニ至ルトキハ其處分ヲ海軍ニ一任ス

(B) 解毀其他ノ費用ヲ差引クモ尙相當價格アリ國有財産整理資金特

別會計ノ收入ニ相當影響スルモノハ學則大廠省ニ協議スルコト

(終)

覺

四一二一七 經理局第二課

大正十一年四月二十六日官房第一五六三號海軍大臣協諭（會計法下、

四五九頁）艦船・浮船架・浮筏橋及浮標ハ用途廢止ノ際單ニ大廠大

臣ハ專前通知ニ止メ之レカ引續ク要セズトアリ

大正十二年八月十八日敕第七・二〇五號大廠次官照會（會計法下、

四六一頁）公用財産整理ノ爲其用途ヲ廢止セントスル場合ニ於テ往

々公共團體其他ト豫メ之ガ處分ニ付交渉セラルル同アルモ右處分ハ

大廠省ニ於テ爲スベキ勅令ナリト云フ

右協定及照會ノ取扱方ニ關シ大廠省營繕管財局安江課長ト左ノ通り

協定セリ

一 艦船其他ノ用途ヲ廢止シ賣却又ハ解毀處分スル場合ハ全部海軍ニ



編 號	F6.0.	保 期	20	艦 艇 名
關 係		發 付 迄	完 結 迄	
		機 種		

軍務局長

經理局長

營管國第一五五三號

昭和四年六月二十日

營繕管財局 務部長 太田嘉太郎

海軍省 經理局長 加藤亮一殿

第一課長 局員

今般千葉縣知事ヨリ縣下沿岸漁業振興ノ一方法トシテ水産試驗場ニ於テ  
築磯試驗施行ノ爲横須賀海軍鎮守府ニ於ケル廢艦艇中小型ノモノ一雙ヲ  
無償下付相受度趣ヲ以テ當省大臣宛申請有之候處右廢止セラレタル艦艇  
アリヤ否ヤハ不明ナルモ若シ不用ニ屬スルモノ有之不日處分セララル場  
合ニ於テハ有償ヲ以テ拂下ヲ爲スコトニ御處理相成候様致度此段及照會  
候也

追テ右ニ付テハ横須賀海軍鎮守府司會長官ニ對シテモ申請セラレタル趣  
趣ニ付爲念申添候



4.6.28

營繕管財局

1059

編年 出納 後	F 60	信正 以朝 根邊	31	29	永
			( )	( )	永

池田艦艇引揚

10901

160

善

指取  
定扱

綴書  
類

號番

外

外

新渡市白山公園前西山方  
大久保満雄苑

昭和四年三月二十日

省副官

係	關	160	保期 3/20	永
			( )	永

大臣閣  
次官

(主務) 軍務局長

昭和四年三月二十日起案

沈船引揚

經理局長

第二課長

書記官

副官

第一課長  
第二課長

局員

起案者捺印

昭和四年參月貳拾日發給

發付後起  
案者捺印

主務局部  
取扱者捺印

(4) 宛封紙(甲)

軍令	艦政	法務	建築	經理	醫務	軍需	教育	人事	軍務	官房	局部
				3.15							受月日 發月日

海

沈没船拾得採掘引揚ニ用之件回答  
 大臣宛上申首題ノ件ニ帝志海軍ニシテ何等ノ  
 關係有之候条本上申書及返上候

巻

1064

1063

1062

紙 箋 符

軍務局

昭和 年 月

日

第一課



海軍大臣官房



4.8.30

1064

1063

昭和 年 月 日

海軍省 經理局



一、昔年未だ史記史権威尾伏竹博士に於て聴取し  
タル諸君大に説く如し

一、五加保丸は昔年村海軍手ノ唯一ノ工船ナリシヲ

以テ當時接本試場ヲ予り服出ニ送リテハ

相違杯移瑠玢シアリシベシ

二、本船は江大城同派ノ場合、精々昔年村ニ保多シ

官軍ニハ引取サガリシモノニテ其所有者ナリ

尙且昔年村(徳川個人ノ財産)ナリト認ムベキ

モノナルベシ

三、本船右ノ如クナルヲ以テ海軍ニ送付ナキモノ

トシテ同答一ノ然モノト認ム

沈没船拾得採掘引揚認可申請書

一、船名

美加保丸八百噸（バーク型木造帆船）元名ブランデンブル  
ク號長廿百七十四呎巾三十三呎

二、沈没之箇處

千葉縣海岸黒生浦ト夫婦カ鼻ノ中間（俗名豆腐ヶ  
岩ノ暗礁）

三、距離

海岸ヲ去ルコト約二丁餘リ水深十三尺

四、目的

船内ニ積載セル大砲小銃其他軍需品一切ノ拾得引揚

五、事由

埋レタル寶ヲ採掘シテ之レヲ世上ニ著ワシ以テ國益ヲ増

模造半葉十三行辭紙

海軍

進スルハ民生ノ福利ニシテ吾人カ社會ニ盡ス所ノ當然  
ノ義務ナレハ進ニテ搜海ノ任ニ就キ冒險的作業ヲナシ  
現今進歩セル科學ヲ應用シテ實地ニ策動セハ勝美  
必ス成功ヲ期スルアリ依而本主旨ニ基キ其筋ノ認  
可ヲ得テ作業ヲ實施スルモノナリ  
六、美加保丸ノ沿革

過ル處慶應元年五月十五日長崎港ニ於テ徳川幕府  
カ普魯西國ヨリ購入セシモノナリシテ明治戊辰革命之  
當時幕軍海軍總督榎本釜次郎等品川灣ヲ脱  
走シテ遠ク北海ニ航走ノ途中旗艦開陽丸ハ運送船  
トナリテ房總ノ鼻ヲ廻リ明治元年八月廿三日朝千葉  
縣銚子ノ沖ヲ航海中猛烈ナル北風吹キ来リテヤカテ  
雨サヘ加ハリテ帆柱ハ雷電ニ摧カレ帆布ハ風ニ破レ翌廿

海軍



三日鹿島灘ニ至リシ頃ニ未嘗有ノ颶トナリ遂ニ曳網  
 ハ断テ切ラレテ舩離散シ激浪奔騰シテ同月廿四廿五  
 ノ兩日ノ如キハ兼真何レモ生色ナク遂ニ廿六日ノ夕刻ニ  
 漂流シテ銚子沖附近黒生浦沖令ニテ俗名豆腐ヶ岩ノ  
 暗礁ニ乗り上ケ沈没セシモノナリ星霜茲ニ六十有餘年  
 其間再三引揚ニ着手セシ人アリシモ何レモ失敗ニ終リ  
 タレハ舩体ハ永久數多軍需品ヲ抱キテ暗礁ニ眠ルノ運  
 命ニ至リシモノナリ

美加係丸採掘引揚ニ要スル設計圖案ハ別ニ正式ノ方策  
 ニ依リ公有氷面認可願ノ當時提出致申可候條拾得  
 採掘御認可被成下度此段願上候也

昭和四年一月廿九日

東京府下青山原宿二百四十九番地

海軍

渡邊方

出願人

大久保 満雄

海軍大臣岡田啓介殿

模造小葉十三行罫紙

海軍



1068

東京市内海軍省

海軍大臣岡田啓成殿

認可申請書



1069

新澤市白山公園取

西山春樹

大久保満雄

一月廿九日



1070 1071

紙 箋 附

昭和四年二月十八日

海軍省法務局

軍務局 印

主務部 身元 調査 之 別 當 答 同 答 之 先 々 々  
 同 人 之 欺 詐 人 物 之 本 年 之 別 何 等 之 事 件 有 之 事 否 之 事 否  
 之 事 否 之 事 否 之 事 否 之 事 否 之 事 否 之 事 否 之 事 否 之 事 否  
 海軍省 之 事 否 之 事 否 之 事 否 之 事 否 之 事 否 之 事 否 之 事 否 之 事 否 之 事 否  
 海軍省 之 事 否 之 事 否 之 事 否 之 事 否 之 事 否 之 事 否 之 事 否 之 事 否 之 事 否 之 事 否

1070 1071

長

陸軍

九

九

調査ニ関スル件回答

出任

昭和四年三月十五日

東京憲兵隊長二宮健市

海軍省法務局長山田三郎殿

二月一日海法機密第九號首題ノ件調査ニ

タリ状況別紙ノ通 回答ス

法務局  
4.2.13  
接受

陸軍

身元調書

元 東京府下青山原宿二百四十九番地

渡邊方

大久保 満雄

一 本名は大正十四年十二月より昭和三年十二月迄肩書

地ニ單身同借居住ラシ居タルカ其後新橋市

白山公園前西山春吉方ニ轉居シタル又ノニシテ

人物経歴等詳知スル者ナク 詳カラサルニ同

居至及知人ノ風評左ノ如シ

一 人物

中學程度ノ學識ヲ有シ一見賤シクモ其人格劣等ナリ

陸

陸

言葉巧ニシテ帝ニ詐欺的行為ヲ以テ他人ニ損  
害ヲ興ヘツアリタリト云フ

一 経歴

詳カクハ有書地居住中沈没船引揚運動ト稱  
シ投資者物色ノ多ク知々奔走ニツアリタル趣キ  
ナル又他ニ就職ニタルコトナキカ如シ

一 生涯ノ動機

不明

一 其他参考事項

有書地居住中甘言ヲ以テ同居主ヲ欺キ居住以來  
一回ノ間代食料ヲ支払タルコトナシ

2. 詐欺横領ノ新科アリト云フ又本籍地ニテサレテ以テ詳カラズ



海法第九號

昭和三年二月一日

海軍省事務局長

東洋電氣海軍部

身元調査之宛元件照会

東洋電氣海軍部原宿二百四十九番地

借身方

大久保満雄

方者今般海軍士官宛別紙字ノ中決及船拾得持据リ揚認可  
申後畫提出ノ事ノ候ニ就テ、同ノ人物、経歴、古行、執務其他  
若考事候申御査上向方、申也新相格及

(別紙子送付)

既

海軍

模造小葉十三行野紙

4.2.11  
表紙

1076

1075

法務局

法務局 印 員

昭和4年1月31日

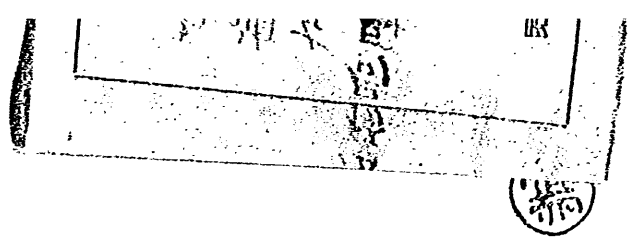
海軍省軍務局



本件出願者、身元為志秀一志承知改方  
調査方孔友  
為本件、同元量向意見承知改方  
出願経理方也、此令中、

法務局  
4.1.31  
接 受

印



1076 1075

沈没船拾得採掘引揚認可申請書

一 船名

美加保丸八百噸（パーク型木造帆船）元名ブランドンブルク號  
長サ百七十四呎巾三十三呎

二 沈没之箇處

千葉縣海岸黒生浦ト夫婦カ鼻ノ中間（俗名豆腐ヶ岩ノ暗礁）

三 距離

海岸ヲ去ルコト約貳丁餘リ水深十三尺

四 目的

船内ニ積載セル大砲小銃其他軍需品一切ノ拾得引揚

五 事由

海軍

埋レタル寶ヲ採掘シテ之レヲ世上ニ著ワシ以テ國益ヲ増進スル  
ハ民生ノ福利ニシテ吾人カ社會ニ盡ス所ノ當然ノ義務ナレハ進  
ンテ搜海ノ任ニ就キ冒險的作業ヲナシ現今進歩セル科學ヲ應用  
シテ實地ニ策動セハ勝美必ス成功ヲ期スルアリ依而本主旨ニ基  
キ其筋ノ認可ヲ得テ作業ヲ實施スルモノナリ

六 美加保丸ノ沿革

過ル慶應元年五月十五日長崎港ニ於テ德川幕府カ普魯西國ヨリ購  
購入セシモノナリシヲ明治戊辰革命之當時、幕軍海軍總督榎本  
釜次郎等品川灣ヲ脱走シテ遠ク北海ニ航走ノ途中旗艦開陽丸ノ  
運送船トナリテ房總ノ鼻ヲ廻リ明治元年八月二十二日朝千葉縣  
銚子ノ沖ヲ航海中猛裂ナル北風吹キ來リテヤカテ雨サヘ加ハリ  
テ帆柱ハ雷電ニ摧カレ帆布ハ風ニ破レ翌廿三日鹿島灘ニ至リシ

頃ニハ未曾有ノ颶トナリ遂ニ曳綱ハ斷チ切ラレテ各船離散シ激浪奔騰シテ同月廿四廿五ノ兩日ノ如キハ乗員何レモ生色ナク遂ニ廿六日ノ夕刻ニ漂流シテ銚子沖附近黒生沖<sup>沖</sup>合ニテ俗名豆腐カ岩ノ暗礁ニ乗リ上ケ沈没セシモノナリ星霜茲ニ六十有餘年其間再再三引揚ニ着手セシ人アリシモ何レモ失敗ニ終リタレハ船體ハ永久數多軍需品ヲ抱キテ暗礁ニ眠ルノ運命ニ至リシモノナリ美加保丸採堀引揚ニ要スル設計圖案ハ別ニ正式ノ方策ニ依リ公有水面認可願ノ當時提出致申可候條拾得採堀御認可被成下度此段願上候也

昭和四年一月二十九日

東京府下青山原宿二百四十九番地

渡邊方

出願人 大久保滿雄

海軍大臣 岡田啓介殿

(願書奉送地  
新芝市白山公園前 西山春吉方)

海軍

海務局

海務局

10801

逕交船美香保丸探堀引揚認可申請ニ関シ伺事

昭和四年一月廿九日付美必郵便ヲ以テ願事捜索美町

式月三日寢安隊ヨリ本省ノ命令ナリトテ身元調査方

申来リ美ハトモ理由ハ不明ニ在リ應ニ照会申上美俾

ニ依リ早速俾答仕可夫

伺之件

一海軍本省ニテ認可相成ルモノナカ否ヤ、認可シル為メニ

必要アリトセハ可矣、高類作成捜索致申可夫

二工事設計、圖案、資金之支辨方法等、明確ニ証明

仕可夫

右俾回答被成下度以段俾願申上美

昭和四年式月五日

官房  
式月七日

4.2.8

美香保丸引楊安頼人

大久保満雄



海軍有

副官部待中



待 届 事

満雄儀

現下新潟縣北蒲原郡松崎村改置地内現役中元  
原名李百里丸(改名春日艦)エービル船抜坂引揚作  
業実施之為メ一新潟県土方セセ九号指令(当市安  
張致居美ニ付甚々恐縮ナカラ)表記ニ待届為  
願上矣

宿 所

新潟市白山公園前西山旅館方

大久保 満雄



右待届申上置矣

沈船引揚

省副官



昭和四年四月拾六日發布  
模造小葉十三行原紙

軍務局

第一課

第二課

昭和四年四月十六日

省副官

興國建築会社社長了了

了了

編 號	F60	原 註 期 積 換	3	29	永 永
關 係					

1083

海軍

夕

沈没艦船ニ関スル回答  
 本月十日付御照會有之候處沈没艦船位置  
 一概略別紙一通ニ有之其ノ他ニ関シテハ當省ニ  
 ハ記録無之候條御了知相成度  
 (別紙一葉添)

(終)

別紙

初瀬	東徑百二十一度二十分	北緯三十八度三十七分
八島	東徑百二十一度四十二分	北緯三十八度三十七分
高砂	東徑百二十一度十五分	北緯三十八度十分
吉野	東徑百二十二度三十三分	北緯三十八度十分
大島	東徑百二十一度八分	北緯四十度一分
濟遠	東徑百二十一度四分	北緯三十八度五十一分

海軍

参考

1085

北緯三十九度

初瀬

東徑百二十一度二十分

(公海)

北緯三十八度三十七分五秒

老鉄山より南四十度東距離約十海里

八島

東徑百二十一度四十二分二秒

(公海)

北緯三十八度三十七分二秒

通岩東北東約五海里 老鉄山より南東微南九海里

高砂

東徑百二十一度十五分

(公海)

北緯三十八度十分

碓礪島より東約二十五海里

吉野

東徑百二十二度三十三分

(公海)

北緯三十八度十分

由島より南東四分十秒 約十海里

内閣省令 支那領事館より 松本  
模造牛葉十三行野紙

海軍

大島

(公海)

東徑百二十一度八分三十分

北緯四十度一分

隄城島水道南隄城島東端南二十度東全西北

端南七十九度四北隄城島西南端北二十度

六尺岩西微南一鍾強

濟遠

(領海内)

東徑百二十一度四分三十分

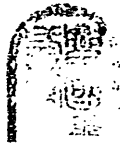
北緯三十八度五十一分

七一才才才才才才(西四。尺也)北西微北一海軍九鍾

海軍

模造半葉十三行野帆

4801



軍務局

沈没艦船位置伺書

元帝國軍艦

第一課

初瀬、八島、高砂、吉野、大島、濟遠

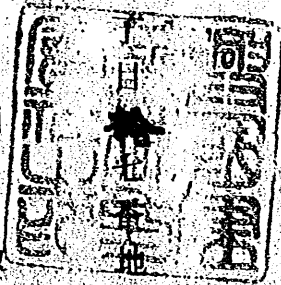
右艦船ハ御省ノ放棄有之關係無之事ハ了知致シ候處今般弊社海事部ニ於テ引揚並ニ潜水事業研究ノ爲メ作業致度候ニ付沈没ノ位置破損海底地質等ニ關スル御省ノ御記録御指示願度此段及御伺候也

昭和四年四月十日

東京市芝區濱松町二

興國建築株式會社

社長 脇田 政



海軍大臣 岡田 啓介 殿

東一平月引揚一申、際ト今社係是社社長  
カワリ居ル

東京市會 2000000



A. A. 11

8801

1760

普通

取扱  
指定

書類  
綴

番号

外

海軍大臣宛上申、本件元帝國軍艦初瀬外五  
隻、海軍に於て放棄せるものニ屬シ、當省トハ何等ノ

沈没艦船引揚ニ關スル件回答

酒卷貞一郎宛

省副官

1760	3	29	永
期限	( )	( )	( )
係			

昭和四年三月五日  
東京市芝区港町三丁目七番地

第一課長  
第二課長

管理局

出仕

局長 山田

艦政本部

第三部  
總務部

第一課

高  
4.2.20  
付

關  
4.2.20  
付

軍令	艦政	法務	建築	經理	醫務	軍需	教育	人事	軍務	官房	局部
	本艦 4.2.20 受接								4.2.6		受月日 發月日

大臣

次官

副官

書記官

(主務) 軍務局長 第一課長 局員

昭和四年二月五日起案

起案者  
捺印

昭和四年三月五日發付

發付後起  
案者捺印

主務局部  
取扱者捺印  
専断紙(甲)

6801

興國建築株式會社

脇田政雄

東京市芝區濱松町二丁目十七番地  
電話 國語 三六二六番  
自宅市外碑谷町宇碑文谷一五一九

關係  
ナキモノニ有之候條  
本上申書及返戻候

(終)

洋

耳



沈沒艦船引揚ニ關スル伺書

今般弊社ニ於テ左記沈沒艦船ヲ引揚ケ拾得致シ度候ニ付キテハ御省ニ於テ御差支無之候也若シ御差支無之トスレハ引揚艦船中御入用ノ部分ハ引揚後弊社ノ費用ヲ以テ御引渡シ可仕此段御伺申上候也

一 戰艦 初瀬

二 戰艦 八島

三 巡洋艦 高砂

四 巡洋艦 吉野

五 砲艦 大島

六 海防艦 濟遠

昭和四年一月

海軍

東京市芝區明舟町二十番地

興國建築株式會社

取締役社長 酒卷貞一郎

海軍大臣 岡田 啓 介 殿

海  
軍

沈没艦船引揚ニ關スル伺書

今般弊社ニ於テ左記沈没艦船ヲ引揚ケ拾得致シ度候ニ付キテハ御省ニ於テ御差支無之候也若シ御差支無之トスレハ引揚艦船中御入用ノ部分ハ引揚後弊社ノ費用ヲ以テ御引渡シ可仕此段御伺申上候也

一 戰艦 初瀬

二 戰艦 八島

三 巡洋艦 高砂

四 巡洋艦 吉野

五 砲艦 大島

六 海防艦 濟遠

昭和四年一月

東京市芝區明舟町二十番地

興國建築株式會社

取締役社長 酒卷貞一郎

海軍大臣 岡田 啓 介 殿

海軍

1094 1095

係	3	20	飛
期	( )	( )	飛
係			

以下  
矢之井

官房第一五四號

大正六年一月十八日

神林虎雄殿

海軍省副官

放棄軍艦ニ関スル件

一月十日付海軍大臣宛上申ノ本件ニ帝國軍艦ハ  
 島外ニ隻ハ海軍ニ於テ放棄セシモノニ屬シ當省ノ何  
 等ノ關係ナキヲ以テ從來何人ニ付シテモ收得ノ權利ヲ

本件以外ニ柴田柳三郎  
 出願アリノ五年十二月八日附官房  
 第三五七号ノニ以テ同様ニ趣  
 回答有

モ亦前記諸艦  
 ナルヲ以テ本ト

海軍

模造半葉十三行録紙

1094 1095

係	3	29	飛
期	( )	( )	飛
種			

官房第一五四號

大正六年一月十八日

海軍省副官

神林虎雄殿

放棄軍艦ニ関スル件

一月十日付海軍大臣宛上申ノ本件ニ帝國軍艦ハ  
 島外六隻ハ海軍ニ於テ放棄セルモノニ屬シ當省ト何  
 等ノ關係ナキヲ以テ從來何人ニ付シテモ收得ノ權利ヲ  
 特ニ許シセルコトナク從テ本件ニ就キテモ亦前記諸艦  
 ヲ引揚收得スルコトヲ承認スル限リニ拜ルヲ以テ本  
 申書又返戻候也

海軍

複製牛養十三行露紙

上申書

明治三十七八年戦役際旅順港附近黄海直隸海峡  
 及遼東海峽方面ニ於テ我セル元帝國軍艦八島初瀬  
 高砂吉野平遠清遠犬島ノ七隻ニ関シ東京市麻  
 布区草苧町五五番地内田良平ヨリ大正五年二月二十日  
 附テ以テ別紙甲號ノ通批棄軍艦收得御許可願ヲ  
 貴官ニ提出致候處同年五月二十日附テ又テ大角副官  
 ヲリ別紙乙號ノ通リ御沙汰有之候ニ付尚ホ内田良平  
 ヲリ同年五月二十二日附テ以テ別紙丙號ノ通御届書差  
 出置候由右関係ノ事實ヲ以テ批棄軍艦收得權トシテ  
 一定ノ報償金ニ付テ契約ヲ以テ批者共ニ讓渡可致  
 事ト相成候就テハ貴官ニ於テ該權利ノ讓渡ヲ受テ  
 繼承候者ニ對シ前記ノ諸艦ヲ引揚收得スル事

模造半葉十三行野紙

海軍

御承認被成下候哉誠ニ立心緒ノ儀ニ御座候得共作  
業經營上煩ル憂慮ニ堪ハサル事有之困却致候間  
何卒御都合ノ程御指示被下度綫重ニ奉懇願候  
右此段上申仕候

大正六年一月十日

東京市中央区富久町丁六番地

神林 虎雄

海軍大臣加藤友三郎殿

機造牛葉十三行野紙

海軍



甲辨

8601

抛棄軍艦取得御許可願

帝國軍艦八嶋初瀬高砂吉野宮古平遠犬嶋愛  
宕脊遠海門川明治三十七八年頃公海ニ沈没破棄  
セラレタルモノニ御座候處現下鑛我ヲ始メ各種ノ船材  
不足ノ折柄ニ有之候間御許可ヲ被リ之カ分解引揚  
仕候ハハ國家經濟上ノ利益トモ相成可申候ニ付右收  
得ノ義御許可被成下度此段御願申上候

大正五年二月二十一日

東京市麻布区萱崎町五十五番地

内田良平

海軍大臣加藤友三郎殿

海軍

模造中葉十三行野紙

乙  
号

6601

官房第一五四號ノ二

大正五年五月二十日

海軍省副官

内田良平殿

次役軍艦以得頼ノ件

二月十日附海軍大臣宛頼出相次候軍艦ノ中八嶋ノ  
 初頼高砂吉野平遠犬嶋等遠ノ裏ニ海軍ニ於テ  
 放棄セルモノニ屬シ從テ當省ニ於テ何等指令スベキ  
 モノニ非ラサルヲ以テ頼書一通及返戻候  
 追テ宮古愛宕海門ノ既ニ賣却處分者ノモノニ  
 候尚頼書一通ハ其考ノタメ當省ニ留置候  
 間御承知相成度

右回答ス

海軍部

模造半葉十三行録紙